

令和元年10月15日

芦屋市議会議長  
中島 健一 様

視察代表者 青山 暁

行政視察について（報告）

標記のことについて、下記のとおり実施しましたので報告します。

記

- 1 視 察 者 青山 暁、大塚 のぶお、中島 健一の計3人
- 2 視察日時 令和元年10月7日（月）～10月8日（火）[2日間]
- 3 視 察 先 ①宮城県女川町（10月7日）  
②宮城県石巻市（10月8日）
- 4 視察項目 ①女川町  
復興状況等の現状と今後の課題について  
②石巻市  
復興状況等の現状と今後の課題について
- 5 報告事項 別添のとおり

以 上

## 令和元年度 行政視察報告書

視 察 日 時	令和元年 10 月 7 日（月） 13 時 00 分 ～ 14 時 30 分
視 察 先	宮城県女川町
視 察 内 容	復興状況等の現状と今後の課題について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	芦屋市の震災カウンターパート市である石巻市に隣接し、町内全域のほとんどが壊滅的な被害を受けた女川町の復興状況を確認し、本市の今後の防災対策や人口減少を見据えた今後のまちづくりの参考とするため。
調 査 概 要	<p>女川町まちなか交流館にて 復興推進課、産業振興課公民連携室、町議会事務局の各担当より復興とまちづくりについて座学の後、町内施設を視察</p> <p>震災時人口 10,014 人、犠牲者不明者 827 人、犠牲率 8.3%、被災率 85.5% 東日本大震災における被災率が最大の自治体</p> <p>東日本大震災後 30 歳代で就任した新町長のもと、復興を 10 年ではなく 8 年でやり遂げる目標で区画整備事業を推進してきた。 「守る」のではなく「逃げる」をまちづくりの核に。さらなる人口減少を見据えた都市構造に。</p> <p>復興の中心として機能してきたのが「女川町復興連絡協議会」「おながわレンガみち交流連携協議会」「デザイン会議」 行政だけではこれからの公共は担えない→民間主導・公民連携のまちづくり 目標通り 8 年間でほぼ復興事業が終了し、宅地住宅の供給が全て完了。仮設入居 0% 女川駅前にぎわい拠点として、女川温泉ゆぽっぽ・まちなか交流館・シーパルピア女川なども完成。現在、町立小中一貫校を建設中</p> <p>課題としては、 ・人口減少の中での復興という大命題のもと、担い手不足や財源確保などの課題を抱えている。</p>
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	<p>「女川は流されたのではない。新しい女川に生まれ変わるんだ。人々は負けずに待ち続ける、新しい女川に住む喜びを感じるために」 この感銘的な標語に象徴されるように若い町長のもと危機感を共有しつつ、若く新しい発想の復興事業と感じた。</p> <p>町に「公民連携室」があり、行政・町民・議会・産業界、が一体となったまちづくりを進めており、期せずしてコンパクトシティとして参考とすべき点が多々あり、今後のまちづくりの課題の参考としたい。</p>

## 令和元年度 行政視察報告書

視 察 日 時	令和元年 10 月 8 日（火） 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
視 察 先	宮城県石巻市
視 察 内 容	復興状況等の現状と今後の課題について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	芦屋市の震災カウンターパート市である石巻市における復興状況を確認し、本市の今後の防災対策や人口減少を見据えた今後のまちづくりの参考とするため。
調 査 概 要	<p>石巻市役所市議会会議室にて 高橋副議長、総務部危機対策課、復興政策部地域振興課・地域協働課・復興政策課の各担当より復興とまちづくりについて座学の後、市内施設を視察</p> <p>震災時人口 162,822 人、犠牲者不明者 3,601 人、犠牲率 2.1%、被災住宅率 76.6%</p> <p>石巻市震災復興基本計画と石巻市防災基本条例に基づき、8 年間で以下の事業を推進してこられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波被害が甚大な旧市街地を非居住区とし、高台に新市街地を形成</li> <li>・J R 石巻駅周辺に医療福祉防災の拠点を集中させ、石巻市民病院・防災センター・ささえあいセンター(建築中)を 2F デッキで連結し、相互の連携を強化</li> <li>・かわまち交流拠点整備事業を完成させ、早くに復興済みの石ノ森萬画館に加え観光の拠点拡大</li> <li>・津波避難タワー4 基の整備や津波避難ビルの指定</li> <li>・新市街地での地域コミュニティーや新自治会形成を支援</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・止まらぬ人口減少</li> <li>・新たな住宅地での地域コミュニティーの難しさ。自治会役員などのなり手不足</li> </ul>
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	<p>震災時からの現市長が「Creative Coproductive Compact」なまちづくりを掲げ、クリエイティブタウン・協働のまちづくり・コンパクトシティを目指してこられた。震災 10 年を迎える 2 年後の選挙には出馬せず勇退されると既に発表しておられるようでその集大成に尽力されているとのこと。</p> <p>人口減少問題や地域コミュニティー次世代人材問題など共通の課題も多く、震災カウンターパート市である石巻市とは今後も定点視察も重ねて、相互の関係性をより深めて、あるべき姿を模索していきたい。</p>

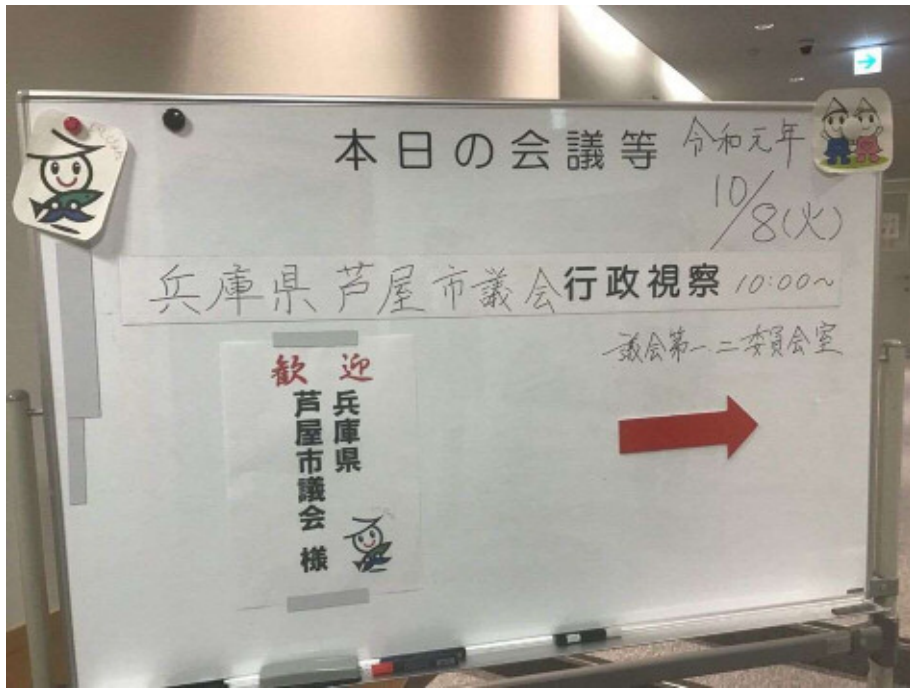
視察の様子（令和元年度）

視察先①

10月7日  
宮城県  
女川町







視察先②

10月8日  
宮城県  
石巻市









